

学 位 論 文 要 旨

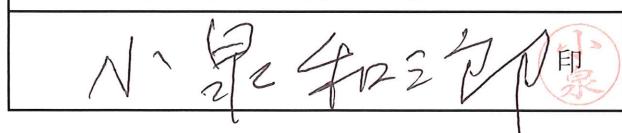
氏 名 古江 康明



論 文 題 目

「Effectiveness and safety of endoscopic aspiration mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in patients with superficial esophageal squamous-cell carcinoma (表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的吸引粘膜切除術と内視鏡的粘膜下層剥離術の安全性と有効性に関する検討)」

指 導 教 授 承 認 印



Effectiveness and safety of endoscopic aspiration
mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in
patients with superficial esophageal squamous-cell
carcinoma

(表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的吸引粘膜切除術と内
視鏡的粘膜下層剥離術の安全性と有効性に関する検討)

氏名 古江 康明

(以下要旨本文)

背景：近年、表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は広く普及している。一方、内視鏡的吸引粘膜切除術（EAM）はより簡便に行える治療手技である。我々は後方視的に安全性と有効性を評価して、EAMとESDの長所と短所を明らかにすることにした。

方法：内視鏡的切除が施行された372例421病変を後方視的に以下の項目について評価した。1) 安全性に関する検討項目を処置時間、有害事象とした。2) 有効性に関する検討項目を一括完全切除率、局所再発率、リンパ節再発率、全生存率、疾患特異的生存率とした。

結果：EAMは134例149病変、ESDは240例274病変に施行した。処置時間はEAMが有意に短かった（EAM vs. ESD=31.0±22.4mm vs. 85.7±46.5mm, p<0.001）。穿孔率はESDに有意に多かった（EAM vs. ESD=0 vs. 6.2%, p=0.002）。一括完全切除率はESDが有意に高かった（EAM vs. ESD=48.3 vs. 91.6%, p<0.001）。局所再発率はEAMが有意に高かった（EAM vs. ESD=5.5 vs. 0%, p<0.001）。15mm未満の病変では、EAMの一括完全切除率は比較的良好であり（EAM vs. ESD=76.1 vs. 100%, p<0.001）、処置時間は有意に短かった（EAM vs. ESD=25.2±15.2mm vs. 62.7±35.2mm, p<0.001）。

結語：ESDはEAMよりも一括完全切除率が高く、局所制御効果に優れている。15mm未満の病変においては、EAMは治療の選択肢の一つとなりうる。